

## 令和4年度 第6回 藤沢市市民活動推進委員会 議事録

### 1 日 時

2022年（令和4年）9月29日（木）午後6時～午後7時9分

### 2 場 所

ウェブ開催

### 3 出席者

(1) 委員 10人

山岡委員長、坂井副委員長、入内島委員、大場委員、関野委員、豊福委員、  
新實委員、樋口委員、細沼委員、間山委員

(2) 事務局 4人

日原参事、森主幹、一瀬上級主査、緒方専任主査

### 4 議 題

- (1) 藤沢市市民活動推進計画の中間見直しについて
- (2) スタート支援コース・ステップアップ支援コースの審査結果について
- (3) 協働コースのマッチング状況等について
- (4) 令和5年度ミライカナエル活動サポート事業について
- (5) その他

### 5 開催概要

#### 開会

(山岡委員長) ただいまから令和4年度第6回藤沢市市民活動推進委員会を開会いたします。初めに、委員会の成立状況のほか、傍聴者の状況などについて、事務局よりお願いいたします。

○事務局より、委員会成立の報告などが行われた。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

## 議題（１）藤沢市市民活動推進計画の中間見直しについて

○事務局より、藤沢市市民活動推進計画の中間見直しについて説明が行われた。

(山岡委員長) 前回の委員会で出していただいたご意見と、その後メールでお寄せいただいたご意見を含めて、修正案をご提示いただいた。今のご説明ですと、いただいたご意見には、ほぼ全て対応いただいているかなという感じです。

ただいまのご説明について、ご意見や確認しておきたいことなどございますでしょうか。

(関野委員) まず、東京 2020 大会に関するイメージが社会的に、前回の委員会開催から大分悪い方面に広がったというところではあるのですが、第 2 章に関する前回の集約意見の中で、藤沢市の場合は、市民応援団であるビッグウェーブなどの活動が盛んに行われたということで、「表現等の修正が必要ではないか」と書かれておりますが、その反映部分が微妙に見当たらないかなという感じがします。見落としていたら申しわけないのですが、この反映部分について、事務局に説明をお願いしてよろしいでしょうか。

(事務局) 東京 2020 大会の記載については、日本全体の中で、東京 2020 大会に携わったボランティアの方々のボランティアイメージといったものが、少しネガティブな印象が強くなってしまったという部分を考慮しますと、ご指摘の部分の内容については、計画から落とすことも考えられる文章または表現かと考えたところです。

ただ、一方で、東京 2020 大会の「ビッグウェーブなどの活動が盛んに行われた」というご意見を捉えさせていただくと、実際、藤沢市内では、ボランティア文化の深まりというものは、確かにあったと考えております。ですので、東京 2020 大会において、「ビッグウェーブなどの活動が盛んに行われた」という具体的な文言は入れてはないのですが、そういった取り組みがあったからこそ、ボランティアの深まりがあったということで、「深まりのほか」という言葉の中に意味合いとしては集約したような形で、今のところ修正をさせていただいているところでございます。

(関野委員) 一部報道でといいますか、多分、今が一番イメージの低下が大きい時期ではあると思うのですが、記述に関しては、結構繰り返し出てきますので、少し気になりました。

(事務局) 全体を見た中で、もう一回修正等も図る可能性もございますけれども、今のところはそういった意味合いも含めて、「ボランティア文化の深まり」という表現を使わ

せていただいております。

(関野委員) 承知いたしました。

(山岡委員長) 確かにここでそこまで読み取るのはなかなか難しいかなという今の関野委員のご指摘は、私も個人的には感じています。読み取れと言われれば読み取れるけどという感じです。

ほかにいかがでしょうか。——よろしいですか。

それでは、今これは二次素案ですので、この後、二次素案がどうなって最終案になるのでしょうか。

(事務局) これにつきましては、きょうご確認いただいた内容が、実は計画本体の大もとのような形になります。これから先、最終案の作成に向けましては、例えば市長の冒頭のご挨拶の文章ですとか、あるいは先ほど意見の反映でご説明した参考資料ですとか、そういった部分を加えて作業を進めていきます。

最終案につきましては、年が明けてしまうのですが、1月11日の第10回に皆様のほうにご提示をさせていただき、ご確認をいただいて、また改めてご意見を賜りまして、その後の修正などは、事務局にご一任していただくような形になると思います。そして、最終的には4月1日から新しい計画が発効するという形になっていくと思います。

その間少し時間がございまして、委員の皆様は改めて事務局としてご意見を賜りたい部分ですとか、ご確認いただきたい部分につきましては、その間の委員会スケジュールが埋まっているものですから、メール等で皆様のほうに情報提供をさせていただくこともあるかもしれませんが、今のところスケジュール的にはそのような形で進めていく予定でございまして。

(山岡委員長) 今ここで、特にそのほか手も挙がりませんので、そんなに大幅に修正したほうがいいのかというご意見は出てこないとは思いますが、もしこれを読んでいただいて、また気がつくようなことがあれば、事務局にメール等で連絡をする、そのようなことでよろしいですかね。

(事務局) 細かい部分でも結構でございまして、引き続きお寄せいただければと思います。よろしく願いいたします。

(山岡委員長) それでは、以上で議題(1)を終了いたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

## 議題（２）スタート支援コース・ステップアップ支援コースの審査結果について

○事務局より、スタート支援コース・ステップアップ支援コースの審査結果について説明が行われた。

(山岡委員長) これはもう既に決まって実施もされているので報告ということですが、別の部会の委員の方は初めてというところもあるかと思しますので、今の事務局のご説明について、ご質問や確認などありましたらいかがでしょうか。——よろしいですか。

伴走支援講座を受けられているということで、順調にかどうかはわかりませんが、まずは事業がスタートしたということかと思えます。

特になければ、以上で議題（２）は終了したいと思います。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

## 議題（３）協働コースのマッチングの状況等について

○事務局より、協働コースのマッチングの状況等について説明が行われた。

(協働コーディネーター：手塚) 今回3事業出まして、それぞれにそれぞれの事情があって、このような結果となりました。

れいんぼ～かふえさんについては、早い時点で担当課とのお話し合いを進めていたということがありました。また、ほかの2つの事業は、それぞれに担当課とのお話も進んではいたのですが、細かいところで勘違いだったり、申請書に書くタイミングの書きぶりを、どこまでどうしたらいいかということについても、ご納得やご理解いただいたりすることがなかなか難しかったようで、このような結果となってしまいました。

1団体ではありますが、去年の事業もその前の年の事業も進んでいることもあり、1事業ということで、次年度に向けてしっかりと成果を出していただけたらよろしいかなと私どもは思っております。

(事務局) 説明については以上になります。

(山岡委員長) これはきょう初めて出てくる話題です。今の事務局の説明、それから協働コーディネーターからの補足説明について、質問や確認しておきたいことなどいかがでしょうか。

(関野委員) 今回、3件のうち2件で、提出後の大幅な変更というのが実質的な取り下げの原因になっているかと思えます。提出段階で調整できていないと、協働相手の求めて

いることに沿うかどうかの確認みたいなものが後から必要になるので、こういった後からの変更の希望みたいなものは間々出てくるということになるかと思うのですが、ここは何かプロセスを挟む必要がありそうな気がするんですけども、いかがでしょうか。

(事務局) 募集説明会等は一応何回かやらせていただいて、その際に協働の考え方や、実際に今、市が行っている事業、市の考えというのをお話しさせていただいております。

また、ご申請が本当にぎりぎり、直前に出されているような状態もございまして、そこまで調整する時間もなかったということです。本来であれば、なるべく早めに相談や申請をしていただければ、少し調整ができたり、そういった形の対応はとれるのかなと思っております。

(関野委員) こういう申請事は、当然、出した側の団体さんの責任が一番大きいかと思えます。つくり込み上、後から大きな修正を受けとめるというのはやはり難しいですね。

(事務局) 一次審査を通過しているということで、当然皆さんに審査していただいた内容で第一次審査が採択されているところですので、その内容が全く変わってしまうような提案をその段階で変えていくのは少し難しいのかなと思っております。

(関野委員) わかりました。

(山岡委員長) 今のことに関連して、申請から実施まで1年ありますので、事業内容が多少変わってくるということは、状況が変わればあるだろうと思えます。とはいえ、審査をしていますので、事務局が今ご説明いただいたことが基本になると思えます。

それと、これは意見ではなく感想ですが、今回の申請者が企業ですね。やはり企業は状況の変化に応じて事業を変えていくということが、NPOとか市民活動に比べると、より当たり前の世界なのかなという気がします。そういう文化の違いみたいなものが今回出てきたのかもしれないなと思います。農彩さんのほうは、もともとの提案が少し曖昧な部分がよりあったと思いますので、それぞれの事情によるところもあると思います。

(坂井副委員長) 今回は、調整相手が3つとも行政を想定して提案されたのかなと思います。民民の協働で提案されてくるケースもありますよね。それと比較すると、民民の場合は「最初から一緒にやろうね」というのが成立していて、その状態で提案してくる。ところが、行政との協働の場合は、提案時点では相手に応じるかどうかわからぬという状況で提案してくる。これが同じ仕組みの中で審査されているわけです。今回がどうということではありませんが、将来的に、少しその辺を考えた仕組みを整理する必要があるかなと思いました。

例えば市民協働の場合なら、協働補助金みたいなものが最初から成立しているので、それが社会にとって本当に役立つのかとか、うまくいくのかを審査して出すという、ステップアップとかと似たような感じがあると思うんです。

行政との協働の場合は、どうもそうではない。そもそも協働関係が成立すること自体が難しいので、少し土俵を変えることも必要なのかもしれないと思いました。あるいは、事前のプロセス、上がってくる前に行政といろいろ調整するような枠組みみたいなものをセットするのかとかですね。

今回は一次審査が終わった後にこういうのをやっていますが、最初に行政と協働したい人に手を挙げてもらって、どんな事業をやりたいのか聞き取って、今後1カ月間は行政との調整期間を設けるから、提案する、しないにかかわらず、手を挙げたところは行政と調整できる仕組みを最初につくってあげるとか。その上で応募してくるならば、市民協働と同じ土俵に乗ってくるかもしれません。

将来に向けて、ちょっとやり方を考えたほうがいいのかという印象を受ける今回の結果だったなと思います。意見としてです。

(事務局) 3件のうちの1つ目のれいんぼ〜かふえさんについては、今回、申請する前から子育て企画課と調整を進めていて、その上でエントリーしてきたので、今回、スムーズに進んでいるところがございます。

また、先ほどの、申請の事前に手挙げというところは、多分ミライカナエル事業の中でも、過去にもその辺で見直しをしてきている経過もあるかと思っておりますので、今後の見直しの際には、今いただいたご意見を含めて検討していく必要があるかなと思いました。

(山岡委員長) 確認ですが、2つ目の提案は、ミライカナエルとしてはやらないけれども、高齢者支援課とエイベックスさんのほうで一緒にやっていくという理解でいいですか。

(事務局) そこまで決まったものではないです。ただ、実は認知症フレンドリー講座は、既に藤沢市と業務委託で実施している事業でございまして、今年度も予算は取っているみたいです。そういったことでは、既に関係はつくられています。今回、認知症という限定した形で事業計画をしていましたが、もっと広い範囲でやっていきたいというところで、今後、高齢者支援課とは引き続き検討していきたい。ただ、まだ事業を一緒にやっていくというところまで決まったという話ではなかったです。

(山岡委員長) やっていくかどうかも含めて検討していくというか、相談していくということですね。

(事務局) そうということです。

(山岡委員長) わかりました。

ほか、いかがでしょうか。——よろしいですかね。

一次審査は3つ通ったけれども、8日には1つだけということで、ちょっと寂しい感じはしますけれども、今の事務局、協働コーディネーターの方からの報告を伺うと、やむを得ないことだと思えます。この1件、みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ by レインボースマイル湘南さんの二次審査を8日にさせていただくことになるかと思えます。

それでは、議題(3)も、以上をもって終了としたいと思います。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

#### **議題(4) 令和5年度ミライカナエル活動サポート事業について**

○事務局より、令和5年度ミライカナエル活動サポート事業について説明が行われた。

(山岡委員長) こちらも、前回の委員会で提示されて、意見交換ができなくて、「後日メールでご意見ください」となった案件かと思えます。今の事務局の説明について、質問や確認しておきたいことなど、いかがでしょうか。こちらはメールでの意見がそんなにたくさん出ている感じではないので、もしメールを送れなかったということであれば、この場でご意見いただければと思います。いかがでしょうか。

(坂井副委員長) 公開プレゼンテーションのことですが、参加されるNPOの皆さんが前向きに受けとめて、よい機会と捉えてやっていただけるのであれば、もちろん公開のほうがよろしいかと思えます。

ただ、自分がプレゼンすることを考えた場合、初めてだと、ちょっと要領がわからないので、後のほうでやりたいなという気がするんですね。つまらないことかもしれませんが、これは応募順とか何かで順番を決めているのかもしれませんが、先頭の団体は、この場で一回プレゼンをやったことがある団体がいたら、それを入れる。後の団体は、どんな雰囲気で行うのかなとか、質問者がどの程度の質問をしているのかなというのがわかるんです。最初の団体はわからないけれども、そういうことに少し配慮してもいいのかなというのが感想です。

(事務局) プレゼンテーションの順番は、団体さんとしてもすごく気になるころだと思っております。

今は申請順にしておりまして、例えばそのコースの中で、ある団体を先に、ある団体は後にというのを過去の実績に基づいてするというのも、なかなか難しいところがあるのかもしれないなとは思っています。例えば、今、スタート支援コースが先で、ステップアップ支援コースが後にやっているの、その順番を入れかえるというのは1つの方法かなと思っています。

今、なぜスタート支援コースを先にしているかという、そのほうがわかりやすいというものもありますが、どうしてもスタート支援コースとステップアップ支援コースだと、団体さんの発表内容のレベル感に差があるのかなというのがあります。どうしても最初の団体が基準になりがちなので、スタート支援コースを先にしていますが、今の坂井副委員長のご意見を伺いまして、先にステップアップ支援コースをして、スタート支援コースの団体さんは、そういったものを見ていただくことも含めて、スタート支援コースとしていろいろ気づいていただけることもあるのかもしれない。そのところは次回の来年度の募集のときに考えてみたいと思います。ご意見ありがとうございます。

(山岡委員長) 今の件でちょっと気になったんですが、公平性の観点から、恣意的にというか理屈をつけて順番を変えるのはまずいと思いますが、申請順なんですね。そうだとすると、それもちょっとどうかなという気もします。プレゼンを後にしたいからぎりぎりに申請するとか、そういうことにもなるかもしれません。もし公平にと考えたら、くじ引きとかのほうが一番公平な気がします。これも参考ですけれども。

(事務局) 実は以前、後になるほど有利だから申請を最後まで引っ張るのかなとか、そういうことを考えたことがございまして、前の制度のときに、それを申請順に選べるような形にしたこともありました。早めを選べるとか、後ろめを選べるとか。結局、それがあるから早く出すとか、遅く出すとか、そういう影響があまり見られなかったので、一回限りぐらいでやめたような記憶をしております。

ただ、団体さんに申請をいただいて、その後の順番は事務局で抽せんをさせていただくとか、そういったこともあり得るのかなと思います。

(樋口委員) 今のプレゼンテーションのことは、前年にスタート支援コースのプレゼンを聞いて、次の年にステップアップ支援コースの2年目のプレゼンがすごく成熟しているというか、うまく活動を伝えられている、そういうところも感じられる醍醐味になっていて、私はこれは継続でよかったなと思う反面、地道ないい活動をしているだろうに、プレゼン力がいま一つだったために、そこが点数に影響するということも、

来年度以降、私たち審査をする側もきちっと見極めていきたいなと思いました。

あと、前回、生活課題、地域課題の意見を出させていただいたのは私ですが、この修正で承知いたしました。

(山岡委員長) プレゼン力がないからということで提案そのものの評価が下がってしまうと本末転倒なので、審査する側がそういうこともちゃんと考慮した上で、始まったばかりの、まだ活動歴の浅い団体はそういうことも踏まえて審査するという事は大事なことですよね。

プレゼンに戻したほうがいいんじゃないかと言ったのは、実は私です。私のような立場からすると、やはりプレゼンのほうがいいと思うんです。市民活動の広がりとか、団体の成長とか。だけど、現場の方とか、より現場に近い方は逆のご意見もあるかなとか思いつつ書きましたが、もし何かあれば、いかがでしょうか。

(大場委員) 私も一活動家として補助金とかに応募したこともあって、やはりプレゼンというのは非常にプレッシャーがかかるといいますか、これ次第で受けられるか受けられないかに大きくかかわって来たりします。ただ、プレゼンで皆さんの前で意見を言うというか、それは自分たちにとってもとてもいい経験になるなど、何回かやったうちで、すごく痛切に感じておりますので、プレゼンはあったほうがいいなと思っております。

(山岡委員長) すごく心強いです。

(関野委員) プレゼン能力がなくて落ちるということもあるかもしれないけれども、それ自体も団体自身のアピール力をちゃんと持っていただいて、そういったところに信頼してお金を預けるというのが助成金等の正しいあり方かなと思いますので、プレゼンでこける、こけないというよりも、ちゃんとそこにエネルギーを注いで、それを成功させるようなところにお金を出すほうがいいかなと私は思います。そういった意味で、プレゼンが残ったのはいいことかなと感じています。

(山岡委員長) 支援の現場からもそういうご意見ということで、私もそうだなと思います。

(間山委員) 私も、プレゼンに関しては、事業を継続するに当たってもいろいろな熱い思いを伝えられる場ですし、プレゼンをすることで事業をよくするために、継続してやるというのは非常に大事な審査の材料になると思います。いろいろビジネスコンテストなどの審査のお手伝いをさせていただいている中でも得手・不得手はありますが、やること自体が事業もしくは補助事業を継続するための事業主の意識の高まりにもなると思いますので、私も同意見です。

(山岡委員長) ほかの場面でも同じようなことがあるということですよ。

ほか、いかがですか。そのこと以外についても、見直し案について。——よろしいですかね。

そうしたら、事務局から、今後の修正の作業スケジュールについて、確認いただけますか。

(事務局) 本日、ご承諾いただいた案を骨格にして、来年度（令和5年度）に入ってから募集が始まるわけですが、それに向けて募集案内の作成だったり、昨年度、大幅に見直してはおりますが、申請書類もいま一度精査してまいります。

最終的に募集案内などを固めるのは年明けになると思います。基本的には募集概要の案はこちらで固めさせていただきますが、微修正の部分は、例えば今後、協働コースの審査選考などもあるので、お気づきになられたことがありましたら、事務局にお伝えいただけますと幸いです。

(山岡委員長) 募集要項案として出てくるのは、年明けの委員会ぐらいと聞いていいですか。

(事務局) もしできましたら、募集案内に関しては事務局にご一任いただきまして、令和5年度の募集案内が完成したら、恐らく令和5年度の委員会の初回だと思いますが、そちらで報告させていただければと思っております。

(山岡委員長) わかりました。

そうしたら、議題（4）についても終了ということによろしいですかね。——それでは、以上で議題（4）を終了します。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

## 議題（5）その他

(山岡委員長) 最後に、議題（5）「その他」について、事務局よりお願いいたします。

(事務局) それでは、事務局より、第7回の開催予定についてお伝えいたします。

今回は、10月8日（土）午後1時から、協働コースの二次審査（プレゼンテーション審査）となります。協働コースの審査選考部会委員でいらっしゃる細沼委員、坂井委員、関野委員、西上委員、入内島委員におかれましては、ご出席をお願いいたします。

スタート支援コース・ステップアップ支援コース審査選考部会のみの方におか

れます。当日、オブザーバーとして傍聴していただくことができますので、ご希望される場合は、事前に事務局までメール等でご連絡くださいますようお願いいたします。

傍聴を希望されない委員におかれましては、次の委員会は11月26日（土）、第8回市民活動推進委員会のミライカナエル活動サポート事業中間報告会となります。詳細につきましては、後日、メールでご案内させていただきますので、ご確認くださいませう、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局) 私から1点、ご報告になります。

本来は前回、報告できればよかったんですが、昨年採択されました協働コースの関内イノベーションさんが今年度行っている湘南セカンドキャリア地域起業セミナーの第1回が8月27日に行われました。その中で、細沼委員にご協力いただいて「自治会町内会における活動と現状」という講話をいただいておりますので、ご報告させていただきます。

もしよろしければ、当日の様子を細沼委員から少しお話しいただいてもよろしいですか。

(細沼委員) 8月27日にFプレイスにおきまして、2時から4時半という時間で、オリエンテーションとして市民自治推進課から川島さんがご報告されて、その後、私のほうで、約40分程度だったと思いますが、湘南大庭地区の自治会町内会の現状ということでお話しさせていただきました。

セカンドキャリアのセミナーということで、当初、定員30名のところ、33名の申し込みがあったということです。当日、欠席の方が2～3名いらっしゃいましたが、30名近くの方が集まりまして、皆さん真剣に話を聞いていただきました。

私の説明の後、それぞれ1分スピーチということで、皆さん自己紹介をされました。そこで、オリエンテーションと、私の話を聞いた感想なども発表していただきました。湘南大庭地区の方が4名いたり、コロナで、辻堂とか、片瀬とか、藤沢に移住されてきた方が結構いらっしゃいました。

ほかの市でもこういうセミナーに参加されている方が結構多くいらっしゃって、今回、一番最初に地域の自治会町内会の話をもっと聞いてから起業のプランを考えるということがとても新鮮だったとか。関内イノベーションさんからアンケート等も送っていただきました。

私としても、とてもいい機会というか、自治会町内会のことを自分で再度いろいろ調べてみたり、市民自治に資料をいただいたり、地域の方に話を聞いてその意見を持っていったり、自分が今やっている事業の子ども会議「マイミライ」の子どもたちの意見を出してみたりできたので、とてもいい機会を与えていただいて、本当に感謝しています。

2回目は前委員長だった中島先生のご講義で、中島先生にもお会いすることができましたし、3回目は事業計画をつくるという講義とか、起業されている方の事例発表みたいなものもありました。

全7回なので、最後の6回目、7回目のプレゼンは、また聞きに行きたいと思っています。そんなところでよろしいでしょうか。

(事務局) 細沼委員、ありがとうございました。事務局からは以上になります。

(山岡委員長) この事業は条件付ということで、特に細沼委員には部会長ということで、いろいろ大変な対応をしていただいて、なおかつその後事業にもかかわっていただいて、今回報告を聞かせていただいて、私もすごく安心しましたし、楽しみになっております。本当にありがとうございました。

(細沼委員) 皆さんとても楽しそうというか、1日目から仲よくなって、第3回目になると、終わった後も廊下で30分以上、皆さん輪になっていろいろなことを話されているので、この後、どんな起業プランが出てくるのか、とても楽しみなセミナーです。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

(山岡委員長) それでは、本日の日程は以上で全て終了となります。今回は長くなりそうだったので、少し長めの時間でご案内しておりましたが、前回は延長したのに今回は早く終わる。そういう日があってもいいかなと思います。

10月8日は所用があり、私は欠席となりますけれども、部会の皆様、どうぞよろしく願いいたします。協働コースが1件ありますので、丁寧に審査いただけると思っております。

それでは、以上をもちまして令和4年度第6回藤沢市市民活動推進委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午後7時9分 閉会